

## 平成31年度援護関係予算概算要求の主要事項

	【30年度予算】	【31年度要求】
援護関係予算総額	23,681百万円	→ 22,816百万円
<b>1 援護年金</b>	<b>8,878百万円</b>	<b>→ 7,718百万円</b>
	(受給人員 4,999人 → 4,201人)	
<b>2 遺骨収集事業等の推進</b>	<b>2,380百万円</b>	<b>→ 2,404百万円</b>
(1) 硫黄島遺骨収集事業 ・滑走路地区の面的調査等	1,372百万円	→ 1,372百万円
(2) 南方・旧ソ連地域遺骨収集事業	719百万円	→ 760百万円
ア 現地調査 ・派遣班数増加に伴う増	266百万円	→ 301百万円
イ 遺骨収集 ・派遣班数増加に伴う増	327百万円	→ 332百万円
ウ 法人運営経費	127百万円	→ 127百万円
(3) 海外公文書館の資料収集	63百万円	→ 47百万円
(4) 遺骨の鑑定	193百万円	→ 193百万円
(5) 遺骨・遺留品の伝達	33百万円	→ 33百万円
<b>3 戦没者慰霊事業等</b>	<b>572百万円</b>	<b>→ 594百万円</b>
(1) 全国戦没者追悼式挙行経費	151百万円	→ 151百万円
(2) 慰霊巡拝等	421百万円	→ 443百万円
ア 慰霊巡拝	87百万円	→ 100百万円
イ 政府建立慰霊碑の補修等	54百万円	→ 62百万円
ウ 海外・国内民間慰霊碑の管理	22百万円	→ 22百万円
(ア) 海外民間建立慰霊碑	10百万円	→ 10百万円
(イ) 国内民間建立慰霊碑	12百万円	→ 12百万円
エ 慰霊友好親善事業	259百万円	→ 259百万円

<b>4 昭和館・しょうけい館事業</b>	<b>644百万円 → 712百万円</b>
（1）昭和館	467百万円 → 520百万円
（2）しょうけい館	177百万円 → 193百万円
<b>5 戦争の経験の次世代への継承（再掲）</b>	<b>29百万円 → 31百万円</b>
（1）証言映像の収録（戦傷病者、中国残留邦人等）	13百万円 → 12百万円
（2）戦後世代の語り部の育成等	16百万円 → 19百万円
<b>6 中国残留邦人等の援護等</b>	<b>10,422百万円 → 10,528百万円</b>
（1）中国残留邦人等に対する支援等	10,205百万円 → 10,335百万円
ア 支援給付の実施等	10,178百万円 → 10,301百万円
イ 中国残留邦人等の介護に係る環境整備	26百万円 → 34百万円
（2）抑留者関係資料の取得及び特定作業関係	158百万円 → 143百万円
（3）戦没者等援護関係資料の移管・整備	60百万円 → 50百万円

※ 百万円単位で四捨五入しているため、各欄の増減が一致しない場合がある。